

「公印省略」

16病防管第557号
平成16年12月27日

各関係機関の長 殿

福岡県病害虫防除所長

平成16年度病害虫発生予報第10号について

このことについて、以下のとおり送付します。

平成16年度病害虫発生予報第10号(1月)

【野菜】

作物名	病害虫名	発生現況 (平成比)	発生予想 (平成比)
ナス	うどんこ病 灰色かび病 すすかび病 ハモグリバエ類	やや少ない やや少ない 並 やや多い	やや少ない 並 並 やや多い
トマト	灰色かび病 菌核病 葉かび病	並 並 やや多い	並 並 やや多い
イチゴ	灰色かび うどんこ病 アブラムシ類 ハダニ類	並 少ない 並 多い	並 少ない 並 多い
キュウリ	べと病 うどんこ病 灰色かび病	多い 少ない 並	やや多い 少ない 並
レタス	菌核病 灰色かび病 腐敗病	少ない 少ない 少ない	やや少ない やや少ない やや少ない
キャベツ	黒腐病 菌核病 コナガ	並 並 並	やや多い やや多い やや少ない
野菜共通	ミナミキイロアザミウマ コナジラミ類	並 やや少ない	並 やや少ない

【野 菜】

1 冬春ナスのハモグリバエ類

(1) 予報の内容

発生量：平年、前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 12月3半旬調査の結果、被害葉率は19.6%（平年：8.2%、前年：8.8%）であった。

イ 気象予報では、1月の平均気温は高く、降水量は平年並か多いと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 多発生後は防除が困難となるので、発生状況に十分注意し、初期防除を徹底する。

イ ほ場周辺の雑草は増殖源になるので、除草を徹底する。

ウ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

エ 薬剤防除は、使用基準を守り、危被害防止に努める（以下の病害虫についても同様）。

2 トマトの葉かび病

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多く、前年並

(2) 予報の根拠

ア 12月3半旬調査の結果、発病葉率は8.1%（平年：1.2%、前年：6.9%）であった。

イ 気象予報では、1月の平均気温は高く、降水量は平年並か多いと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

アハウスの換気を行い、多湿にならないよう管理する。

イ 草勢が低下すると発病が助長されるので、適正な肥培管理を行う。

ウ 病勢が進展すると防除が困難となるので、発病前または発病初期の防除を徹底する。

エ 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

オ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

3 イチゴのアブラムシ類

(1) 予報の内容

発生量：平年並、前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 12月3半旬調査の結果、寄生株率は2.4%（平年：2.0%、前年：1.1%）であった。

イ 気象予報では、1月の平均気温は高く、降水量は平年並か多いと予想されている（以下の病害虫についても同じ）。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 多発生後は防除が困難となるので、発生状況に十分注意し、初期防除を徹底する。

イ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

4 イチゴのハダニ類

(1) 予報の内容

発生量：平年より多く、前年よりやや少ない

(2) 予報の根拠

12月3半旬調査の結果、寄生株率は9.7%（平年：2.6%、前年：14.2%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 多発生後は防除が困難となるので、早期発見、早期防除に努める。

イ イチゴ以外の植物にも寄生するので、ほ場周辺作物や雑草の薬剤防除、除草を行う。

ウ 寄生した株の葉かぎ後の複葉や抜き取った雑草は、ほ場周辺に放置せず速やかにビニル袋等に入れて密閉し処分する。

5 キュウリのべと病

(1) 予報の内容

発生量：平年、前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 12月3半旬調査の結果、発病葉率は7.5%（平年：2.3%、前年：0.3%）であった。

イ 気象予報では、1月の平均気温は高く、降水量は平年並か多いと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 草勢が低下すると発病が助長されるので、適正な肥培管理を行う。

イ ハウスの換気を行い、多湿にならないよう管理する。

ウ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

6 キャベツの黒腐病

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多く、前年より多い

(2) 予報の根拠

ア 12月3半旬調査の結果、発病株率は1.6%（平年：2.8%、前年：0%）であった。

イ 気象予報では、1月の平均気温は高く、降水量は平年並か多いと予想されている（以下の病害虫についても同じ）。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 発病後の防除は困難となるので、発病前または発病初期の防除を徹底する。

イ 降雨が続くと多湿条件で発生が助長されるので、雨後は薬剤散布を行う。

ウ 発病株を放置すると感染源となるので、ほ場外に持ち出し処分する。

エ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する（以下の病害についても同様）。

7 キャベツの菌核病

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多く、前年より多い

(2) 予報の根拠

12月3半旬調査の結果、発病株率は0.6%（平年：0.5%、前年：0%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 発病後の防除は困難となるので、発病前または発病初期の防除を徹底する。

イ 降雨が続くと多湿条件で発生が助長されるので、雨後は薬剤散布を行う。

ウ 発病株を放置すると感染源となるので、ほ場外に持ち出し処分する。

エ 菌核は土中で2～3年は生存し、次作の感染源となるので、収穫終了後に残さをすき込まないようにする。

1月の気象予報（1か月）

（予報期間 12月25日～1月24日）

2004年12月24日

福岡管区気象台発表

【概要】

向こう1か月の平均気温は平年並、降水量は平年並が多く、日照時間は平年並か少ない可能性が大きいでしょう。

九州北部地方では、平年に比べ曇りや雨または雪の日が多いでしょう。

【要素別確率】

（単位％）

要素	低い （少ない）	平年並	高い （多い）
気温	30	40	30
降水量	20	40	40
日照時間	40	40	20

- < 1週目の予報 > 12月25日～12月31日
この期間の平均気温は、平年並か低い可能性が大きいでしょう。
- < 2週目の予報 > 1月1日～1月7日
この期間の平均気温は、平年並の可能性が大きいでしょう。
- < 3～4週目の予報 > 1月8日～1月21日
この期間の平均気温は、平年並の可能性が大きいでしょう。

参考資料

福岡における平年値

向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間と1週目、2週目、3～4週目の平均気温

向こう1か月			平均気温（ ）		
平均気温（ ）	降水量(mm)	日照時間(h)	1週目	2週目	3-4週目
6.8	71.5	101.5	7.6	7.2	6.5

病虫害防除所では、病虫害の発生状況と防除について、ホームページでお知らせしています。アドレス及び番号は下記の通りです。

ホームページアドレス
電子メールアドレス

<http://www.jppn.ne.jp/fukuoka>
kfok0301@sp.jppn.ne.jp